



学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報

今月のトピック紹介版

7月号



授業づくりのプロセス

1学期の計画訪問や要請訪問では、各校とも「めあてーまとめ・振り返り」の取組が着実に進められていることが分かりました。次のステップとしては、「教師の発問」「まとめのアウトプット」がポイントになると考えています。指導者の発問でまとめにつながるポイントが引き出せているか、終末で学んだことを子供が表現できているか確認をお願いします。

特別の教科 道徳の授業づくりー「振り返り」から授業を構想する！ー

道徳科でも他教科と同様、「振り返り」から逆思考で授業を構想することが大切です。授業を構想する際には、「どんな振り返りが書ければねらいを達成したことになるのか」、まず整理することをお勧めします。本号では、道徳科で押さえたい4つの事柄をもとにした振り返りの例をお示ししていますので、道徳科の授業づくりにお役立てください。

めあてーまとめ・振り返りの徹底化 全員が主役になる授業づくり②

全国学力・学習状況調査のB問題を基にした授業づくりについて紹介します。算数B問題では、「示された考えを解釈し、数値や条件を変えて表現する問題」が出題される等、数学的な見方、考え方を基にした論理的な思考力や表現力が求められています。本資料については、日々の授業づくりの参考にしていただくとともに、夏季休業中の校内研究の参考にしていただければと考えています。

安心・安全な学校づくりの実践例～未然防止～ 学期末における自治の取組紹介

1学期が終わろうとしている今、子供たちが自らの生活について振り返り、自治力を高めた状態で2学期を迎えることが大切です。自治力を高めるための取組として「学級目標の達成度を振り返る活動」と「児童会・生徒会で子供たちが主体的に生活を振り返る活動」について紹介していますので、学期末の取組にお役立てください。

特別支援教育ほっと通信

子供たちの力を最大限に伸ばすためには、担任のみでなく関わりのある先生方で組んだ機動力のあるチームで支援を検討することが大切です。今回は、支援を検討する場の一つである支援会議の進め方について紹介していますので参考にしていただければと思います。

授業づくりのプロセス ゴール「まとめ」の設定→めあての設定

【まとめ】【小学校社会科6年 江戸幕府と政治の安定】
参勤交代を制度として定めることで、各藩に費用や労力を使わせ、大名の勢力を抑える仕組みを整えて、政治を安定させようとした。



【めあて】
幕府が参勤交代を制度として定めた理由を考え、説明しよう。

(2) 発問により「まとめ」を引き出す！

幕府にとって参勤交代の制度は本当に必要だったのかな？



時間も労力もたくさん使うから、大名にしたら迷惑だよな。



すごく費用がかかってお金の無駄遣いだから必要ないと思う。

大名に費用や労力を使わせて、幕府が得することは何だろう？



大名の勢力を抑えて反抗できないようにしたんじゃないかな。そうしたら、幕府の政治が安定するよ。

【まとめ】
参勤交代を制度として定めることで、各藩に費用や労力を使わせ、大名の勢力を抑える仕組みを整えて、政治を安定させようとした。

実際の指導場面から(1)個人→グループ



大名行列の図と資料を関連付けて読み取る
(個人→グループで共有)

(3) 「まとめ」を全員でアウトプット！

【取組例】 「まとめ」の全員アウトプット

今日「学んだこと」を、全員が書いたり声に出したりする機会(アウトプット)をつくることで、学習内容の定着を図る。

幕府は、各藩に費用や労力を使わせることで、大名の勢力を抑えました。



説明する 書く ペアで グループで全員交代で

「振り返り」から授業を構想する！

小学校では本年度から道徳科が全面実施されていますが、こんな困り感はありませんか…？

いつもみんな同じような振り返りになってしまいます。



これでは変容が見取れず、評価もできません。

先生は、子供がどんな振り返りを書けばねらいが達成できたと想定されますか？



あいさつは大切だということが分かりました。

これからは大きな声であいさつをしたいです。

道徳的諸価値について理解している？

自己の生き方について考えを深めている？

「道徳性を養うために行う道徳科における学習(解説p17-18)」をもとに、振り返りの具体を想定してみましよう

(1) 道徳的諸価値について理解する

道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深める。

価値理解…道徳的価値は大切であると理解すること
 人間理解…大切ではあるがなかなか実現できない人間の弱さなども理解すること
 他者理解…実現に向けては多様な感じ方・考え方があること

(2) 自己を見つめる

(3) 物事を多面的・多角的に考える

(4) 自己の生き方について考えを深める

【ゴールイメージ(振り返りの例)】

今日の学習で、

- (1)あいさつにはみんなを明るく元気にするすごい力があることが分かりました。でも、「自分からははずかしくてできない」という意見がたくさんでした。
- (2)ぼくも、自分からあいさつをするのははずかしいです。
- (3)でも、みんなであいさつをしてクラスが明るく楽しくなったらうれしいなと思いました。
- (4)だから、がんばって自分からあいさつを試みようと思いました。

想定した振り返りから授業を構想してみましよう

児童観

あいさつは大切だと思っているが、自分からあいさつをするのは難しい。

授業者の価値観

あいさつのよさを理解し、自分から進んであいさつをしようとする態度を養いたい。

ここがポイント！！

どのようにして子供の心を揺さぶるか？

子供たちは、「あいさつは大切」ということは分かっているけどできないのだな。



あいさつをすることが自分や周りにとってどのようなよさがあるのかを考えることができるような発問が必要だな。

資料観

あいさつをすることを嫌がっていたけれど自分からあいさつをするようになったわけを考えるを通して、あいさつのよさに気づくことができるようにする。

「たびに 出て」(わたしたちの道徳 小学校1・2年)

「あいさつなんていやだ」と思っていたけれど、自分からあいさつを始めたのはなぜでしょうか。



あいさつをすると島みんながもっと仲良くなれると思ったからじゃないかな。



確かに、あいさつをすると明るく楽しくなるよね。あいさつの力ってすごいんだね。これからは自分からあいさつをしたいな。



授業を構想する際には、まずはねらいを達成した子供の具体的な姿を想定してみましよう。子供がどのような思考をたどってその姿に到達するかを逆思考で考えることによって、より効果的な発問の設定が可能になります。

めあて—まとめ・振り返りの徹底化 —全員が主役になる授業づくり②—

全国学力・学習状況調査の算数Bを見ると、「示された考え方を解釈し、数値や条件を変更した場合を考え表現する問題」が出題されています。今月は、提示された考え方を解釈して活用する力の育成について考えてみたいと思います。

全国学力・学習状況調査 算数B問題より

2の段と3の段の縦に並んでいる2つの数の和は5の段の数になる

【ひろとさんの考え】

「8, 12」のとき

$$\begin{aligned} 8 + 12 &= 2 \times 4 + 3 \times 4 \\ &= (2 + 3) \times 4 \\ &= 5 \times 4 \\ &= 20 \end{aligned}$$

「18, 27」のとき

$$\begin{aligned} 18 + 27 &= 2 \times 9 + 3 \times 9 \\ &= (2 + 3) \times 9 \\ &= 5 \times 9 \\ &= 45 \end{aligned}$$

ひろとさんの考えを解釈して、4の段と5の段に条件を変えて考える。

(1) 4の段と5の段の縦に並んでいる2つの数「32, 40」の和が、9の段の数になるわけを【ひろとさんの考え】と同じように考えて式に表します。下のア、イにあてはまる式を書きましょう。

$$\begin{aligned} 32 + 40 &= \text{ア} \\ &= \text{イ} \\ &= 9 \times 8 \\ &= 72 \end{aligned}$$

友達の考えを理解して、数値や条件が違う場合を考える力を付けるにはどのようにしたらよいのでしょうか？

<ポイント>

★数値や条件を変えてもきまりが成り立つのかを問う。→全員アウトプットできるようにする。
この問題に関連する2年生と4年生の問題を例に考えてみましょう。

第2学年 単元「九九のきまり」より

		かける数								
かけられる数		1	2	3	4	5	6	7	8	9
	2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27	
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45	

2の段と3の段をたすと5の段になっています。

★数値を変えてもきまりが成り立つのかを問う。

1の段と4の段をたすと5の段になりますか？

2つの段をたして他の段をつくることができますか？

★思考を深めるために条件を変えて問う。

2つの段をたしてできるなら3つの段をたしてもできるかな？

たしてできるならひいてもできるかな？

分かったことをペアやグループ等で伝え合うことで子供たちの理解につなげることができます。

第4学年 単元「式と計算の順序」より

分配法則の学習

Aさん $(5+2) \times 6$

黒石5個と白石を合わせて考えて $(5+2)$ でそれが6つあるので $(5+2) \times 6$ になります。

Bさん $5 \times 6 + 2 \times 6$

黒石と白石を別々に考えてたすと $5 \times 6 + 2 \times 6$ になります。

2人の説明から、 $(5+2) \times 6 = 5 \times 6 + 2 \times 6$ になると分かりました。

★数値や条件を変えても分配法則が成り立つか問う。

数字がかわってもこのきまりは成り立ちますか？

黒石と白石の数の違いを求める場合はどうなりますか？

例えば、ペアやグループでたす場合やひく場合を分担して成り立つか調べ、分かったことを伝え合うことで子供たちの理解につなげるといった展開も考えられます。

分配法則の学習後に上記の全国学力・学習状況調査の問題を適用題や家庭学習に活用することも考えられます。

数値や条件を変えて考えることで複数の問題を通してまとめ、分かったことを全員アウトプットすることで、子供たちの理解につなげましょう。

学期末における自治の取組紹介

入学・進級を経て、新しい仲間や先生方との出会いの中で子供たちは自分の居場所を見つけられているでしょうか。また、学校や学級での安心・安全は守られているでしょうか。1学期が終わろうとしている今、子供たちが自ら生活について振り返り、自治力を高めた状態で2学期を迎えるための取組を紹介します。

学級における取組

◆学級目標の達成に向けて現在値を測る



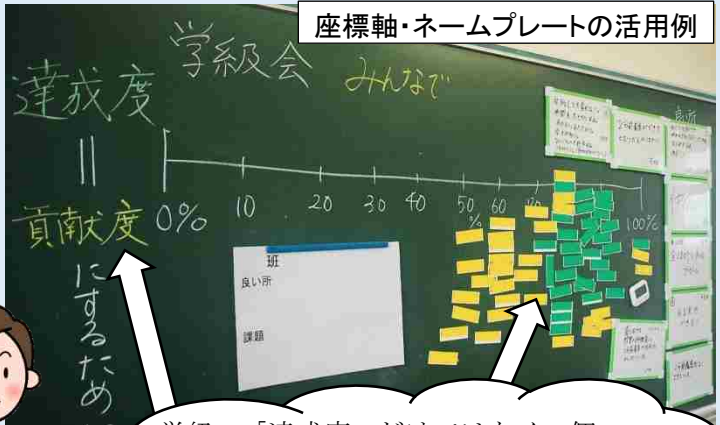
あんなに話し合ってたのに、1学期間、教室の後ろに飾られたままだ・・・。



現在の達成度は何%だと思いますか？座標軸に自分のネームプレートを貼って、その理由を話し合ってみよう。



箕蚊屋中学校の実践



学級の「達成度」だけではなく、個人の「貢献度」も色を変えて示すことで、自分と学級自治との関わりを考えることができます。

箕蚊屋中学校の実践

レーダーチャート活用例

複数の項目を数値化することにより、何が達成できていて、何が課題なのかを可視化します。



ここがポイント！

できていないことだけではなく、できていることや、できるようになりたいことなどにも目を向け、肯定的に捉えた上で2学期の取組に向かえるようにすることが大切です。

児童会・生徒会における取組

◆終業式や始業式の後、全体の場で児童生徒主導の時間を確保する

- 学級や学年等の1学期の振り返りや2学期への抱負
- 西部地区総体の結果報告会や県大会への抱負（中学校）
- 運動会や体育祭に向けて（スローガン発表、ダンスリーダー募集等）
- 夏休みの過ごし方について（代表の児童生徒が全校へ呼びかける）

◆地区別子供会（登校班）で話し合いをする

- 身の回りの地域や通学路における危険箇所や交通安全の確認
- 公民館や地域の行事（夏祭り・ラジオ体操等）への参加呼びかけ



教師が一方向的に話すのではなく、児童生徒が主体的に自分たちの生活を振り返ることができる場の設定が大切です。



自分を表現したり、仲間を認め合ったりできる集団の育成が、安心・安全な学校づくりにつながります。



【バックナンバー紹介】

平成27年度7月号「シリーズ若手教師のための学級づくり『夏休み前の学級づくり』」も参考にどうぞ。西部教育局のホームページから、ご覧いただけます。





支援会議は、支援を必要とするすべての児童生徒（以下、児童等）が安心して学校生活を送ることができるように、関係者が情報を共有し、より良い支援が行われるよう検討するものです。今回は、校内の教職員で行う支援会議のねらいや進め方のポイントを紹介します。

支援会議

—校内での支援を検討—

児童等に関わりのある教職員で**小さなチーム**を作り、**必要な時に柔軟に会を開いて**、支援を検討する会議

【参加者】 学校の教職員（担任、学年団、特別支援教育主任、教科担当等）

【内容】 児童等の状況報告、課題の明確化、目標の設定（修正）、具体的な取組（改善策）の検討

支援会議の進め方（1～3）（例）

（1）担任が**必要な時**に児童等に関わりのある教職員に声をかけ、会を開催する。

例えば、児童等や保護者、教師が困っている時



担任や特別支援教育主任が進行するとよいでしょう。



（2）支援を検討するために話し合いをする。

- ・児童等がどのような事に困っているのか、どのような事が起きているのかを担任が説明する。【現状報告】
- ・参加者は、それぞれの関わり方や児童等の様子について説明する。
- ・児童等の**行動の背景**を探り、その仮説を立てる。【課題の明確化】
- ・**短期目標**を設定する。【目標設定】
- ・具体的な支援を検討する。【具体的な取組】

冰山モデル
表面に見える「困難さ」

見えにくい発達上の課題
見えにくい要因

「いつ？」「どこで？」「どのような支援を？」「どのくらい？」を明確に！



「条件（状況）」

利用される環境や教材、支援の質を明らかにする内容

「行動」

評価ができる行動を示す「動詞」の記述

「基準」

許容できる達成度の基準点、標準点

平成29年2月号
平成30年2月号
の「ほっと通信」を
御参照ください。



（3）個別の指導計画を作成・修正する。

検討した目標や具体的な取組等を**個別の指導計画に反映**させる。

個別の指導計画に
基づいた支援！



支援会議後には

（3）までを**チームで**
行うことが望ましい！



具体的な取組の実施

検討した支援は、**すぐに実践**を！
※常に評価を意識し、**成果がみられない場合は、支援の再検討**をしましょう。

校内委員会で報告、共有

支援会議で検討した支援は、**校内委員会で必ず報告**し、その**方向性等について検討**しましょう。

場合によっては、**外部機関との連携**の必要性を検討することも考えられます。



校長は、児童等の状態や支援内容の評価を踏まえて、**必要な見直し**を行うよう指示します。

